



Title	美を知る
Author(s)	横道, 仁志
Citation	a+a 美学研究. 2017, 10, p. 132-133
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/90166
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

美を知る

ぼくたちはほんとうに美を体験したことがあるでしょうか。快楽の体験でも有用性の理解でもなく、美を純粹に体験したと断言できるでしょうか。美が何であるのか定義する前にそれを体験したと主張するならば、論点先取になります。でも、美を体験したかどうか定かでないなら、どうしてその性質を定義できるでしょうか。プラトンが説く美の本質、それは「感覚可能な真理」です。美は一面では真理なので、理性で理解可能です。しかし同時に、美は一面では快楽なので、直観で体験可能です。だから、理性にしたがう哲学者と快楽にしたがう大衆が対話の場を持てるとしたら、美のようなものが仮定されないといけないわけです。学が成立するために美が要請されるのであって、学が美を定義できるわけではありません。この意味で、美に最も近いものを挙げるなら、それは「信」です。美学と神学がつかず離れずの関係にある理由はここにあると、ぼくは思います。

横道仁志

